

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
憲 法	2 単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>		
<p>憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。</p>		
<b>《学習成果》</b>		
<p>レポ ー ト：日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる。</p> <p>科 目 試 験：国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）の構成が学習でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 憲法と立憲主義・日本憲法史</li> <li>2. 日本国憲法の構成と基本原理</li> <li>3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等</li> <li>4. 精神的自由権</li> <li>5. 身体的自由権</li> <li>6. 経済的自由権</li> <li>7. 社会権</li> <li>8. 参政権と国務請求権</li> <li>9. 統治機構の基本原則</li> <li>10. 国会と立法権</li> <li>11. 内閣と行政権</li> <li>12. 裁判所と司法権</li> <li>13. 財政</li> <li>14. 地方自治</li> <li>15. 憲法改正</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「憲法」(配本テキスト)		
<b>参考書・参考資料等</b>		
テキストに示されている資料の他、「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
情報リテラシーと処理技術	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>		
<p>情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：パーソナルコンピュータの基本ソフトの役割について理解し、適切な操作ができるようになる。</p> <p>科 目 試 験：情報通信技術（ハード・ソフト）について理解し効果的に活用できるようになる。</p> <p>スクーリング：ワープロ・表計算ソフトの基本操作ができるようになる。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
<b>【通信授業】</b>	<b>【面接授業】</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報化社会</li> <li>2. コンピュータの発展</li> <li>3. ハードウェア</li> <li>4. ソフトウェア</li> <li>5. 情報ネットワーク</li> <li>6. インターネット</li> <li>7. 情報システムの課題</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows の基本操作</li> <li>2. 文書作成の基本①（書式設定）</li> <li>3. 文書作成の基本②（図形・表）</li> <li>4. 文書作成の基本③（ページ設定）</li> <li>5. 表計算の基本①（書式設定）</li> <li>6. 表計算の基本②（計算式・関数）</li> <li>7. 表計算の基本③（グラフ機能）</li> <li>8. プレゼンテーションの基本</li> </ol>	
<b>テキスト</b>		
「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「情報セキュリティ10大脅威2018」  <a href="https://www.ipa.go.jp/files/000065376.pdf">https://www.ipa.go.jp/files/000065376.pdf</a>（独立行政法人情報処理推進機構 2018/10/31現在）</p> <p>「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社）（ISBN：9784774191423）</p> <p>「演習でまなぶ情報処理の基礎」鶴田陽和編著（朝倉書店）（ISBN：9784254122220）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<b>【通信授業】</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>		
<b>【面接授業】</b>		
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
健康科学	1単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>		
<p>日常生活においては、テレビ番組、健康雑誌、健康器具などで健康に関する情報があふれており、私たち国民の関心の深さをうかがうことができる。このような状況の中、高齢化社会を迎えているわが国において、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。</p>		
<b>≪学習成果≫</b>		
<p>レポート：自己の体力増進や健康管理ができるとともに、自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。</p> <p>科目試験：運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。</p>		
<b>授業の概要</b>		
健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
1. 健康な生活設計	自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える	
2. 運動の基礎理論	トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ	
3. 運動生理学	運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める	
4. 救命救急	救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ	
5. 運動処方①	運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ	
6. 運動処方②	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ	
7. 健康日本21	「健康日本21」から自己の健康への課題を探る	
8. 生活と運動	自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ	
<b>テキスト</b>		
「健康科学」(配本テキスト)		
<b>参考書・参考資料等</b>		
特になし		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
スポーツ(実技)	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>		
<p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的のスポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニュースポーツも体験・理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。</p>		
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. バレーボール①基本練習</li> <li>3. バレーボール②応用練習</li> <li>4. バレーボール③ゲーム・審判</li> <li>5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス</li> <li>6. バドミントン①基本練習</li> <li>7. バドミントン②シングルのゲーム</li> <li>8. バドミントン③ダブルスのゲーム</li> <li>9. バスケットボール①基本練習・応用練習</li> <li>10. バスケットボール②ゲーム・審判</li> <li>11. 卓球①基本練習</li> <li>12. 卓球②シングルのゲーム</li> <li>13. 卓球③ダブルスのゲーム</li> <li>14. ニュースポーツを学ぶ(ティーボールなど)</li> <li>15. ウォーキングとその効果について</li> </ol>	<p>※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もあります。その際、個人的・集団的のスポーツをバランスよく取り扱います。</p>	
<b>テキスト</b>		
「健康科学」(配本テキスト)		
<b>参考書・参考資料等</b>		
特になし		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
英語コミュニケーション	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>		
<p>今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p> <p>科目試験：英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>本テキストは3つのChapterからなっている。Chapter 1は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまずChapter 1を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人はChapter 1にはあまり時間をかけずにChapter 2に進み、英語の理解を深める。Chapter 3では、保育の現場でのさまざまな生活場면을題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<p>Chapter 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の文法（動詞、形容詞、副詞）</li> <li>2. 英語の文法（比較、代名詞、疑問詞）</li> <li>3. 英語の文法（進行形、完了形、受動態）</li> </ol> <p>Chapter 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 英語の基礎構文（5文型）</li> <li>5. 英語の基礎構文（修飾語句）</li> <li>6. 英語の基礎構文（接続詞、仮定法）</li> </ol> <p>Chapter 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 入園準備</li> <li>8. 登園・降園</li> <li>9. 室内遊び</li> <li>10. 外遊び</li> <li>11. 健康・病気・けが</li> <li>12. 運動・お散歩</li> <li>13. 食事</li> <li>14. 工作・お絵かき</li> <li>15. おたより・行事</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「英語コミュニケーション」（配本テキスト）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
「新・保育の英語」森田和子著（三修社）（ISBN：9784384333992）		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p>		

